

様式15 評価結果報告書

所属班	作業療法
対象校	岐阜保健大学
評価結果	適合

基準Ⅰ 教育理念

【評価項目に対する評価結果及びその理由】

教育理念・使命・目的ならびに3Pについて明文化しており大学のホームページや学生便覧にも公表している。DPへの到達度を把握するためCPに具体的な授業科目を明文化し、3Pの関連図を学生便覧へ明示していることを確認した。3P実効性の検証については、カリキュラム完成年度を迎えた後に、学科会議、教授会、評価委員会、内部質保証評価会議等の体制を整えており、今後実施する予定であることを確認した。

【優れた点】

特になし

【改善を要する点】

完成年度後に現在、検討している内部質保証を実行し3Pの実効性の検証が望まれる。

基準Ⅱ 教員

【評価項目に対する評価結果及びその理由】

全教員が修士以上の学位を取得している。学科長の教育・研修は未受講で2026年度以降に、専任教員講習会または中長期教員研修を受講計画していることを確認した。OT協会へ入会申請中であった1名の専任教員について、OT協会の会員証を確認した。臨床実習指導者講習会を未受講である2名の専任教員に対しては、受講を促していることも確認した。教科目と専門性について文部科学省のAC教員審査で承認を得た教員が、該当科目を担当していることを確認した。教員要件、教員数、教員配置については、法令や基準に準拠した体制は概ね整備しているが、教育の質保証の観点から、さらに個別的な研鑽が期待される。

【優れた点】

特になし

【改善を要する点】

学科長はじめ、その他の教員について、教育・研修への参加が求められる。

基準Ⅲ 教育

【評価項目に対する評価結果及びその理由】

教育課程および教育の質保証に関する取組みは概ね整備している。今後、能動的学習を促進する工夫として、症例をイメージしやすいようPBLなどを評価学や治療学の科目に取り入れ、学外での見学等と組み合わせた授業構築を検討していることを確認した。プレディプロマサプリメントを含むディプロマサプリメントの作成については、学部教務委員会でも話題に挙がっており、今後は全学的に検討していく予定であることを確認した。学業達成率向上の対策として、1・2年次の休学・

退学を予防する目的で、アドバイザー制度（AG活動）を履修単位外の位置づけで、時間割に組み込み、先輩や教員を中心に学修支援を行っていることを確認した。このAG活動を通じ、教員が学修状況をモニタリングし、適宜指導しており、ドロップアウト者は減少傾向にある。国家試験対策については、入学前教育に記憶定着アプリ（モノグサ）を導入し、入学後も継続して専門基礎科目の学習ができる環境を整備していること、全学年共通の3科目試験（解剖学・生理学・運動学）の導入などの工夫をしている。備品台帳等の確認および図書館での学術誌20冊以上の確認を行った。施設基準に則した教室数や備品に問題がないことを確認した。

**【優れた点】**

1.2年生の学修支援として、学科全教員でフォローアップ体制を実践し、結果として休学・退学者の減少に繋がっていることは優れた取り組みである。

**【改善を要する点】**

特になし

**基準IV 臨床実習**

**【評価項目に対する評価結果及びその理由】**

基本的な構成および実習時間数、実習体制、教育方法等の要件を満たしていることを確認した。臨床実習科目は1年次より系統的に配置し、合計単位数は25単位、時間数は1125時間である。時間数を単位45時間で算出していたため、1単位40時間で再計算し、様式5の再提出を依頼した。実習施設への通学は、大学または居住地から90分以内で通える施設と契約していることを確認した。この条件では地域的に精神・発達障害領域の施設が少なく、身体障害・老年期領域に偏りがあること実習施設の確保に苦慮している現状について理解できる。領域の偏りへの対応として、精神障害領域についてはクリニック等の新規開拓を、発達障害領域については外来部門で多くの小児疾患を対象としている施設の新規開拓を検討していることを確認した。すべての実習指導者がガイドラインの要件を満たしていることを、補足資料により確認した。なお、1名については修了証を紛失しているが、地域見学実習を担当している。実習前後には、個別面談、実習指導者への学生情報の共有、実習地訪問指導（原則1回）の実施や学生指導においては、学習管理システム（Glexa）や教員が専用の電話番号を持てるアプリを学生に周知し、個別対応を強化するなどの工夫を確認した。

**【優れた点】**

学習管理システムや直ちに学生と連絡が取れるようにアプリを導入するなどして学修環境の整備を整え実践している点は評価できる。

**【改善を要する点】**

特になし

**基準V 学生**

**【評価項目に対する評価結果及びその理由】**

学生受け入れは、開学から定員充足率が5割未満であると完成年度を迎えられないことから、令和9年度以降の定員を30名から15名に変更する予定であることを確認した。1期生は、文科省認可が12月と遅く、入学者数が9名となった要因であると確認した。入学者増加に向けては、大学独自の奨学金制度の導入を確認した。入学前教育の基礎学力定着のためeラーニングシステムを導入し実施している。その実効性の検証は、今後の検討事項であることを確認した。作業療法学科は大学院未設置であるため、TA制度は検討しておらず、現行はAG活動により対応している。卒業生（1期生）を

対象に、令和8年3月にホームカミングデーを開催し、卒後のニーズを調査すること、その後にキャリア支援を検討する予定であることを確認した。ハラスメント防止対策として学内委員会を中心に、ハラスメント防止のための啓発活動を教職員・学生・臨床実習指導者・保護者への周知・啓発活動として実施している。

【優れた点】

特になし

【改善を要する点】

入学前教育の取組みについての効果検証を今後、実施に至ることを期待する。

基準VI 管理・財務

【評価項目に対する評価結果及びその理由】

管理運営、財務会計の体制は、法人ならびに大学の各々に意思決定機関が整備しており権限と責任の所在を明確化、実施している。教育研究活動のための管理運営に必要な職員の配置や役割も明確化、運用している。教員の採用・昇任は規程に基づき適切に運用している。財務会計は不当な徴収はなく、規程に基づき、経理統括責任者を学長におき法人事務局にて運営し定期的な内部監査の機会を設け管理している。外部資金獲得に向けての研修会等を開催し、外部資金の申請を実施していることを確認した。以上から、管理運営、財務会計体制の構築をし、適正な実施である。

【優れた点】

特になし

【改善を要する点】

特になし

基準VII 内部質保証

【評価項目に対する評価結果及びその理由】

毎年度の自己点検・評価を実施し、その結果を公表している。大学全体として機関別認証評価・分野別認証評価を受審している。内部質保証として、学部内には各種委員会、会議体を設置され学部内での授業改善のためのアンケート分析や教育プログラム等について、PDCAサイクルへの取り組みを実施。情報公表については、教育活動、教育成果や事業報告や財務諸表、自己点検評価等を学校ウェブサイト等で公表。自己点検評価、情報公表は適正な実施である。

【優れた点】

特になし

【改善を要する点】

特になし